女性のライフサイクルと特有の疾患について

ー薬剤師にできること

座長
日本薬剤師会理事
小林百代
和歌山県薬剤師会副会長
鋤柄宣子

現在の日本では総人口の約51.4％を女性が占め、その数は6398万人である。生物学的に見た女性は、女性ホルモンの変動により体や心に影響を受けている。女性ホルモンの変動というのは、思春期・成熟期・更年期・老年期といったライフステージによって大きく変わるだけでなく、思春期から更年期には月経→排卵→月経と月内変動を繰り返す。

現代の日本女性は初経の低年齢化と出産回数の減少により、一生のうちに約400～500回の月経を繰り返す。戦前の日本女性の月経回数が約50回だったことと比較すると、たった80年の間に10倍近くに増えたことになる。この排卵や月経回数の多さは、月経前症候群（ＰＭＳ）や月経困難症を引き起こす回数を増やすばかりか、子宮内膜症、子宮筋腫、卵巣癌、乳癌など女性特有の病気の発症リスクになっているとも考えられている。一方で、ＰＭＳをはじめとする月経に関連した症状や更年期障害の当事者たちの多くは、「当たり前のことだ」「仕方がない」「病院へ行くほどではない」「我慢するしかない」などと思っており、症状があるにも関わらず医療機関を受診したことのある人の割合は全体の約３分の１しかなく、症状が重度であっても約半数は受診したことがないという現状にある。

この分科会は、毎月繰り返す症状に悩まされている女性や独りで抱えて相談できずにいる女性たちに寄り添い、薬剤師としてできることについて考えることを目的として、まずは女性のライフサイクルおよび女性特有の疾患について理解し、さらには乳癌の術後ケアについても知識を深める機会としたい。女性特有の疾患を持つ患者の大多数が、男性にももっと理解してほしい思っているとの調査データもある。

どう接したら良いのか分からない、もっと知りたいと思っている薬剤師なら男女を問わず大歓迎。この分科会をかかりつけ薬剤師機能を拡げる好機と捉え、オール薬剤師で共に学びたいと考えている。

（小林百代）

スポーツファーマシストによるアスリートサポート

座長
日本薬剤師会常務理事
亀井美和子
和歌山県薬剤師会常務理事
山下真経

アスリートにとって体調管理は重要であるが、近年はドーピング基準の厳しさに比例して、アンチ・ドーピングの側面からも、さらにその重要性が増している。そのような中、スポーツファーマシストがアスリートをサポートする際の知識や連携にも変化が求められている。本分科会では、アスリートをサポートするための知見を深め、スポーツファーマシストとして、また薬剤師として、アスリートをサポートする上で今何が大切なのかを考える機会としたい。

基調講演は、日本体育大学児童スポーツ教育学部教授であり日本オリンピック委員会強化スタッフでもある須永美歌子氏に登壇いただき、「スポーツ科学の知見に基づくアスリートサポートー性差を考慮したアプローチ」と題し、男性と女性の形態的・生理的な違いを踏まえて、主に女性アスリートのサポートに焦点を当てて、性差を考慮したアプローチの重要性についてご講演いただく。その後、岩手医科大学薬学部講師の杉山育美氏からは「食の知識とアンチ・ドーピング活動ーアスリートにもっと寄り添うために」、アスレチックトレーナーの服部祐介氏からは「アスレチックトレーナーと薬剤師の連携」、オリンピック出場経験者でもある黒田薬局の松島美菜氏からは「海外遠征で感じた薬剤師の必要性」と題して、ご講演いただく。

ＪＡＤＡが認定する公認スポーツファーマシストは現在１万2000人となり、多くの薬剤師がアンチ・ドーピングの知識を既に有している。その知識をベースとして、アスリートの体調管理を身体面・心理面からも支えることで、信頼関係が一層深まることになる。ぜひ本分科会に参加いただき、ご自身の活動に役立てていただきたい。

（亀井美和子）

新型コロナウイルス感染症の類型変更以降の学校薬剤師への期待

ー子供たちの未来のために何ができるか

座長
日本薬剤師会常務理事
富永孝治
和歌山県薬剤師会学校薬剤師部会副部会長
抜井久司

３年半以上に及ぶ新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの学校では教育活動が従来通り実施できないという状況が続いた。私たち学校薬剤師は学校関係者と協力し様々な感染防止対策を行い、教育の機会の確保と質の担保を図ってきた。

５月８日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが２類相当から５類に変更され、学校でもマスクをしない児童生徒らの笑顔が溢れている。しかし、コロナ感染者数は相変わらず増減しており、収束の気配はない。感染者が確認された場合にどう対応するかなど、コロナ類型変更後の学校の対応マニュアルを見直し、学校薬剤師として求められていることは何か改めて見直すべき時が来ている。

本分科会はコロナ類型変更後の学校薬剤師の活動について、まず文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課の鈴木貴晃氏に、類型変更に伴う「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」の改訂など、国が求めるあり方を制度面から解説していただく。続いて横浜薬科大学の田口真穂氏に、学校における感染症対策の重要性について換気を中心にお話しいただく。そして日本薬剤師会学校薬剤師部会の豊見雅文氏に、手指消毒や換気などの健康習慣の維持や学校環境衛生検査の完全実施に向けた取り組みについて講演いただく予定である。

新型コロナウイルス感染防止対策の中で培った手指消毒や換気などの健康習慣や効率的な環境衛生活動、ＩＣＴを活用した多様な教育活動など、いわば“良い習慣”はぜひ継続してほしいと考える。一方で、若年者の大麻・一般用医薬品の乱用の増加など長期にわたるコロナ禍で生じたと指摘される健康課題も多数存在する。本分科会では、学校薬剤師が担うこれからの感染防止対策とコロナ禍での健康教育支援を探る協議を行い、児童生徒等の現在と将来を守るための学校校薬剤師活動の再認識を図りたい。

（富永孝治）

第56回 日本薬剤師会学術大会（順不同）

東北医科薬科大学
〒981-8558 仙台市青葉区小松島四－四－一
電話 〇二二（二三四）四一八一番

奥羽大学 薬学部
〒963-8611 郡山市富田町三角堂三一－一
電話 〇二四（九三二）八九三一番

城西大学 薬学部
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台一－一
電話 〇四九（二七一）七七一一番

日本薬科大学
〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室一〇二八一
電話 〇四八（七二一）一一五五番

東京理科大学 薬学部
〒278-8510 野田市山崎二六四一
電話 〇四（七一二四）一五〇一（代表）

東京薬科大学 薬学部
〒192-0392 東京都八王子市堀之内一四三二－一
電話 〇四二（六七六）五一一一番（代）

武蔵野大学 薬学部
〒202-8585 東京都西東京市新町一－一－二〇
電話 〇四二（四六八）三三五〇番

明治薬科大学
〒204-8588 東京都清瀬市野塩二－五二二－一
電話 〇四二（四九五）八六一一番（代）

当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/